

なつと ともだち

配当時数	11 時間	配当時期	1 年 6-7 月	教科書ページ	上巻 p42-51
特に中心となる内容	(5)季節の変化と生活				
単元の目標	夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。				
単元の評価規準	<u>知識・技能</u> - 夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付いている。 <u>思考・判断・表現</u> - 夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見つけている。 <u>主体的に学習に取り組む態度</u> - 夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとしている。				

小単元の目標	学習活動	重点評価規準
なつと ともだち なつを みつけよう 4 時間／上 p42-45 目標 夏を見つける活動の中で、自然の様子を五感で捉えたり、春の様子と比較したりすることができ、夏らしさに気付くことができるようにする。	①夏らしい事や物、遊びを出し合い、これからしたいことについて話す。 - 教科書を見ながら、夏らしい事や物、したことのある遊び、これからしてみたいことを出し合う。 ②夏見つけの散歩をする。 - 教師は、事前にコースを調査し、どんなものと触れ合うことができるかを想定しておく。また、春の学校探検の記録を確認しておく。 ③見つけたことや気付いたことを伝え合う。 - 教師は、「見つけた『夏』を教えてね。」などと問いかけ、気付いたことを表現できるよう促す。	<u>知識・技能</u> - 植物や生き物、気温、風などの夏らしい自然の様子に気付いている。 - 熱中症対策や手洗いなど、病気の予防に努めている。 <u>思考・判断・表現</u> - 夏の自然の様子について、五感を通して感じ取ったり、春の様子と比較したりして捉えている。
はなや くさで あそぼう 3 時間／上 p46-47 目標 草花で遊ぶ活動の中で、草花の特徴を比べたり遊びを工夫したりすることができ、自然に興味をもって進んで楽しむことができるようにする。	①草花を使って遊ぶ。 「こんなこともできるね。」と教師がやってみせたり、いっしょに遊んだりするとよい。児童の興味に合わせ、虫とりなどをしてよい。 ②見つけたことや気付いたことを伝え合う。	<u>思考・判断・表現</u> - 夏の花や草の特徴を比べながら、草花でできる遊びやそのルールを考え、工夫して遊んでいる。 <u>主体的に学習に取り組む態度</u> - 花や草などの身近な自然に興味を持ち、自ら進んで関わり、楽しもうとしている。
みずで あそぼう 3 時間／上 p48-49 目標 水を使って遊ぶ活動を通して、友達どうして比べたり、道具による変化を予想したり、ルールや遊びを工夫したりしながら楽しむことができるようにする。	①水を使って遊ぶ。 - 水遊びや砂遊びなどを通して、水に触れる気持ちよさや、砂や土で思い切り遊ぶ楽しさを味わう。 - 自然と触れ合いながら夢中になって遊ぶ中で、水や砂の性質に関する科学的な気付きがあれば、教師が価値付けるとよい。 - プラスチック容器など、遊ぶための道具は、教師が用意するか、自宅に	<u>思考・判断・表現</u> - 友達どうして道具を比べたり、道具や材料などによってどのような変化がおこるのか予想したりしながら、水遊びをしている。 - ルールを考えたり、友達と一緒に遊んだり、工夫しながら水遊びを楽しんでいる。

	ある物を持ってくるよう促す。 ②見つけたことや気付いたことを伝え合う。	
なつとともだちに なれたかな 1 時間／上 p50 <u>目標</u> 夏らしい自然の様子や夏ならではの遊びの楽しさを実感することで、これからも積極的に自然と触れ合って遊んだり、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしたりしようとするができるようにする。	①活動を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。 - これまでの記録などを見ながら、友達との対話の中で活動を振り返り、本単元でしたことや、もっとやってみたいことなどを書く。 - 教師は、遊んだ記録や撮影していた写真などを用意して、振り返りのための環境作りをしておく。また、「春とは何が違うかな。」などと問いかけ、春との違いに気付いた児童の発言を取り上げるとよい。	<u>主体的に学習に取り組む態度</u> 夏らしい自然の様子や夏ならではの遊びの楽しさを実感することで、これからも積極的に自然と触れ合って遊んだり、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしたりしようとしている。
あめの ひも だいすき 配当外／上 p51 <u>目標</u> 雨の日や雨上がりの散歩を通して、自然の様子を五感で捉えたり、晴れの日の様子と比較したりすることができ、雨の日や雨上がりの自然の様子について、晴れの日との違いに気付くことができるようにする。	①雨の日や雨上がりに校庭などに出て、その様子を観察する。 - 教師は、雨の日や雨上がりに、「雨の日探検をしてみようか。」などと問いかけ、雨の日の様子に目を向けられるようにする。 - 雨の日の生き物や植物、地面の様子などを、見て、聞いて、触って、歩いて、感じることを通して、自然の変化と自分たちの生活とを関係付けたり、雨の日の生活を楽しんだりする。 ②見つけたことや気付いたことを伝え合う。	<u>知識・技能</u> - 雨の日や雨上がりの自然の様子について、晴れの日との違いに気付いている。 <u>思考・判断・表現</u> - 雨の日や雨上がりならではの様子について、視覚や聴覚、嗅覚などを働かせて感じ取ったことを、晴れの日の様子と比較しながら活動している。